平成２４年度

事 業 報 告 書

公益財団法人 通信文化協会

目　　次

１　はじめに　・・・・・・・・・・１

２　逓信総合博物館の運営事業　・・・・・・・・・・１
（１）逓信総合博物館の展示　・・・・・・・・・・１
（２）照会に対する回答・資料貸出等　・・・・・・・・・・２
（３）土曜・日曜・祝日ワークシュップ等の開催　・・・・・・・・・・２
（４）電信電話教室　・・・・・・・・・・２

３　前島密賞の贈呈事業　・・・・・・・・・・２

４　会報「通信文化」の発行事業　・・・・・・・・・・３

５　文化活動の運営事業　・・・・・・・・・・４
（１）文化講演会・実践手紙講座等　・・・・・・・・・・４
（２）てづくりレターコンクールの実施　・・・・・・・・・・５
（３）ホームページの見直し　・・・・・・・・・・６
（４）社会貢献活動の実施　・・・・・・・・・・７

６　土地・建物賃貸事業　・・・・・・・・・・７

７　施設管理事業　・・・・・・・・・・７
（１）逓信総合博物館施設関係　・・・・・・・・・・７
（２）日本電信電話株式会社施設関係　・・・・・・・・・・７

８　会員に対する諸施策　・・・・・・・・・・７
（１）記念品等の贈呈　・・・・・・・・・・８
（２）インターネットを利用した「つうしんぶんか
メンバーズクラブ」の創設　・・・・・・・・・・８
（３）叙勲祝賀会（会費制）の開催　・・・・・・・・・・８
（４）新年賀詞交歓会（会費制）の開催　・・・・・・・・・・８

９　中西重思･遺児育英基金の管理･運営　・・・・・・・・・・８

１０　団体傷害保険等の取扱　・・・・・・・・・・８

１１　会員増加対策　・・・・・・・・・・９

１２　役員会議等開催状況 ＜管理・共通＞　・・・・・・・・・１０
（１）理事会　・・・・・・・・・１０
（２）評議員会　・・・・・・・・・１０

１３　協会本部の組織・業務の見直し　・・・・・・・・・１１

１　はじめに

本協会は、明治４１年５月に通信協会として発足、同４３年には「財団法人逓信協会」に改組し、百余年の歴史を刻んできたが、平成２４年３月２８日、内閣総理大臣から公益財団法人として認定を受け、同年４月１日に「公益財団法人通信文化協会」として新たにスタートした。

逓信総合博物館の運営、前島密賞の贈呈、通信文化の普及・発展等に関する事業を行い、もって我が国の手紙等文字コミュニケーション文化と情報通信・放送文化の向上に寄与することを目的として文化活動等各種施策を実施した。

逓信総合博物館の情報通信館は東日本電信電話株式会社から受託して当協会が運営している。
一方、郵政資料館は日本郵政株式会社の直営となっていたが、公益財団法人への移行を機に、この運営についても本協会が行うことになり、これによって逓信総合博物館の運営全体を本協会が行うことになった。

２　逓信総合博物館の運営事業

（１）逓信総合博物館の展示

博物館運営事業については、本年度から(公財)通信文化協会が逓信総合博物館全体の運営を行うこととなり、郵政資料部、NTT 資料部が一体となって業務に取り組み意欲的な博物館活動を行った。

年間を通じ８回の特別展を開催し、様々なワークショップ等を行ったため、逓信総合博物館の平成２４年度の入館者は、３年振りに１０万人の大台を超えて１００，５９４名、開館日数は３０９日で、一日平均３２５名となり、平成２２年度、２３年度を大きく上回った。

逓信総合博物館特別展開催状況

No	主 催 者	特　別　展　名	期　　間	開催日数	入館者数（人）
1	日本絵手紙協会	震災復興支援展	4月 3日(火) ～　4月22日(日)	18	602
2	逓信総合博物館	謎解き 「時間旅行展」	4月28日(土) ～　7月 1日(日)	56	18,844
3	日本郵趣連合	全日本切手展 2012	7月14日(土) ～7月16日(月・祝)	3	3,105
4	逓信総合博物館	夏休みファミリーイベント 「科学捜査展」	8月4日(土) ～ 8月26日（日）	20	19,499
5	逓信総合博物館	江戸の旅情 「五街道と旅展」	9月 15日(土) ～ 10月28日(日)	38	10,361
6	逓信総合博物館	スロヴァキアの切手展	11月3日(土･祝) ～12月24日（月･休）	45	9,595

7	逓信総合博物館	原田泰治 「ふるさとの心の風景」展	1月3日(木) ～ 3月31日(日)	76	29,926
8	逓信総合博物館	春休みファミリーイベント「不思議の国のアリス」「工作教室」	3月20日(水･祝) ～ 3月31日(日)	10	(7,916)

（２）照会に対する回答・資料貸出等

一般利用者からの各種問合せのほかに、新聞社・テレビ局・出版社等からの取材照会も多く、時代考証や正確な記載内容といった点で寄与している。

≪問合せ回答件数≫　ア．郵政関係　８６５件
　　イ．電話関係　７２件
　　合　計　９３７件

また、館外における対外的活動としては、他博物館の特別展、出版社の教科書・雑誌の制作等に際し、当館保管の通信関連資料等の貸出しを行った（３２６件）。また、展示機器の説明等に関して、適宜、支援を行った。

（３）土曜・日曜・祝日ワークショップ等の開催

絵手紙、消しゴムハンコ、字手紙、起こし文など様々なワークショップや参加型郵便体験「スペースポストマン」を毎週土・日・祝日に開催し、好評を博した。

・開催回数　２０９回
・参加人数　約３，５００人

（４）電信電話教室

博物館ホール・教室・会議室において電信電話教室を開催し、一般の方や企業の新入社員を対象に講義や案内・説明を行った。

・開催回数　３７回
・参加人数　５５９人

３　前島密賞の贈呈事業

前島密賞は、逓信事業の創始者である前島密の功績を記念し、その精神を伝承発展せしめるために昭和３０年度に創設されて以来、情報通信及び放送に関して顕著な功績のあった方々９１７名(団体を含む。)に贈呈して功績を称え顕彰し、情報通信・放送文化の発展に寄与してきた。

平成２４年度の前島密賞(第５８回)については、これまでの総務省及び旧官業系推薦機関に、前年からの電気通信事業者協会、日本ＩＴＵ協会、日本民間放送連盟等の民間事業者団体等を加え、贈賞対象者の幅を広げて実施した。

平成２４年７月２６日に新しい募集要綱をＨＰ上等で公表し、９月２９日を締切日とし、２回の選考委員会及び理事会の議を経て２６名（うち共同研究１４名）・１団体の受賞者を決定し、本年３月１５日に多数の参加者の下に贈呈式を開催した。

４　会報「通信文化」の発行事業

平成２４年度は、協会の公益財団法人への移行や名称変更に伴い、誌名も「逓信協会雑誌」から会報「通信文化」に変更して４月号から発行した。これを機に会報のサイズをＡ５判からＢ５判へ拡大したことから、これまでより誌面にゆとりができ全般にわたって読みやすくなったほか、新連載コラムの採用や読者参加の「談話室」等の記事を増やすなど会報の充実を図ることができた。

記事については、次表のとおり、岡野裕基金記念講演会シリーズの講演録を中心に特集として編集した。新年号では日本郵政グループの新たな展開について、グループ４社の幹部役員５名による座談会を実施、掲載した。

また、厳しい協会財政の下、会報の充実のための新たな財源として、昨年度に引き続き広告収入の確保に取り組んだ。

年間１２回（毎月５８，０００部発行）

発行月	特　集　記　事	執筆者又は話し手
２４年 ４月	新協会のスタートに当たって 天野理事長に聞く	聞き手　フリーアナウンサー 好 本　　恵
５月	第 57 回前島賞受賞記念講演 星とともに	元日本放送協会副会長 今 井 義 典
６月	岡野裕基金記念講演会シリーズ ラジオの魅力、言葉の力	フリーアナウンサー 遠 藤 泰 子
７月	岡野裕基金記念講演会シリーズ 地域社会を維持する情報通信（前編）	東京大学名誉教授 月 尾 嘉 男
８月	対談　郵政民営化見直し法について 長谷川憲正前参議院議員に聞く	聞き手　公益通信文化協会 理事長　天 野 定 功
９月	岡野裕基金記念講演会シリーズ 地域社会を維持する情報通信（後編）	東京大学名誉教授 月 尾 嘉 男
１０月	岡野裕基金記念講演会シリーズ 糖尿病とメタボについて	ＮＴＴ東日本札幌病院院長 小 池 隆 夫
１１月	岡野裕基金記念講演会シリーズ 「語り」は心の絵画	語り部、かたりすと 平 野 啓 子
１２月	前島みちのく放浪記	元塩釜郵便局職員 菊 地 勇 治
２５年 １月	新春座談会 日本郵政グループの新たな展開	日本郵政株式会社専務執行役 高橋　亨ほか４名
２月	岡野裕基金記念講演会シリーズ 日本語は楽しい	落語家　　立川 談四楼

３月	岡野裕基金記念講演会シリーズ 私たちと社会保障（前編）	小樽商科大学商学部教授 片 桐 由 喜

５　文化活動の運営事業

本協会の元会長である故 岡野 裕氏の夫人からの寄附（１億円）による「岡野裕基金」により、次のとおり文化活動を行った。

（１）文化講演会・実践手紙講座等

地方本部	開催日	施策名等	講　　師	開催場所	参加者
北海道	24. 5.22	文化講演会①「糖尿病とメタボについて」 ②「最近の電気通信事業の現状と課題」	① 札幌病院長 池　隆夫 ② 電気通信事業部長 原口 亮介	札幌市	360
	24.10. 6	文化講演会①「語りは心の絵画」 ②「絵手紙で広げるコトバの力」	① 語り部･かたりすと 平野 啓子 ② 日本絵手紙協会 公認講師　遠藤 市子	釧路市	500
	24.10.23	文化講演会 「支えて 支えられる私たちと社会保障」	小樽商科大学教授 片桐 由喜	苫小牧市	120
	25. 3.16	文化講演会「介護する時・される時」	小樽商科大学教授 片桐 由喜	札幌市	130
東　北	24. 7. 4	文化講演会 「笑って 元気 石巻」	マルチタレント 伊奈かっぺい	石巻市	280
関　東	24.11. 6	スマホ教室	ＫＤＤＩ市場開発部	横浜市	12
東　京	24. 6. 9	ポストぴかぴか ＆手紙教室	絵手紙講師 奥津和木子	杉並区	60
	24. 6.30	文化講演会 「語りは心の絵画」	語り部・かたりすと 平野 啓子	渋谷区	186
信　越	25. 2.10	文化講演会 「夢の実現」	東京国際大学サッカー部 監督　大竹 七未	長野市	460
北　陸	24.10.18	「絵手紙」体験会	日本絵手紙協会 公認講師　二永由美子	高岡市	25
	24.11.14	文化講演会 「早道飛脚の生活」	石川県生涯学習登録 講師　瀬戸 末松	金沢市	150

東　海	24.10.13	文化講演会「情報通信技術が変革する世界」	東京大学名誉教授 月尾 嘉男	名古屋市	297
	24. 7.12	スマホ教室	ＫＤＤＩ市場開発部	名古屋市	24
	24. 7～9	手紙教室	日本絵手紙協会 公認講師他	いなべ市 他	延べ 223
近　畿	24.10.27	文化講演会 「日本語は楽しい」	落語家　　立川談四楼	大阪市	108
	24. 9.20	スマホ教室	ＫＤＤＩ市場開発部	大阪市	20
中　国	24. 9.14	スマホ教室	ＫＤＤＩ市場開発部	広島市	23
	24. 8.10	絵手紙教室	絵手紙講師　大塚 悦実	岡山市	33
	25. 2. 3	文化講演会 「語りは心の絵画」	語り部・かたりすと 平野 啓子	福山市	203
四　国	24. 7. 4	親子手紙教室	ＰＦＣアドバイザー 入口 高士	西宇和郡 伊方町	20
九　州	25. 1.27	文化講演会 「引き算の美学」	俳人　　黛 まどか	長崎市	360
沖　縄	24.10.20	スマホ教室	ＫＤＤＩ市場開発部	那覇市	18

（２）てづくりレターコンクールの実施

オリジナルの手紙を創造する楽しさを通じて、文通の促進や手紙文化の振興を図ることを目的とした「てづくりレターコンクール」を昨年に引き続き実施し、今回は新たに「ていぱーく賞」を設けた。

コンクールには、全国から１，９１２点の作品が寄せられ、第１次審査会、第２次審査会を経て９６作品が入賞・入選した。ホームページ上で受賞者を発表したほか、入賞作品をまとめた作品集を発行し、関係機関や入賞者に配付した。

このコンクールの入賞作品展を、逓信総合博物館において２月に開催した。２月１７日には、関連イベントとして、二胡奏者チェンミンさんによる「チェンミン・レターコンサート」を同館地下２階ホールで開催した。

ア　募集期間　　平成２４年９月１日（木）～２４年１１月２日（金）
イ　主　　催　　公益財団法人 通信文化協会
ウ　協 賛 等　　協賛：日本郵便株式会社、公益財団法人日本郵趣協会
　　協力：日本郵政株式会社
　　後援：公益社団法人日本青年会議所
　　こどもの部・学生の部の後援：全国都道府県教育委員会連合会
エ　審 査 員　　審査員長／畦地教子（株式会社日本ホールマーク 代表取締役社長）
　　審 査 員／貝淵純子（切手デザイナー）、徳川孝子（デザイナー）、松尾謙一（公益財団法人日本郵趣協会 事務局長）、山下健一郎（日本郵便株式会社 郵便事業部 切手・葉書室 担当部長）、葉祥明（絵本作家）、安藤三男（公益財

団法人通信文化協会　文化事業部長）

オ　入賞者数

てづくりレター部門及び絵はがき部門

部　門	区　分	通信文化協会賞	日本郵便賞	日本郵趣協会賞	ていぱーく賞	審査員奨励賞	佳作	入選	計(人)
てづくりレター	こどもの部	1	1	1	1	1	2	6	13
	学 生 の 部	1	1	1	1	1	2	8	15
	おとなの部	1	1	1	1	1	2	10	17
絵はがき	こどもの部	1	1	1	1	1	2	11	18
	学 生 の 部	1	1	1	1	1	2	10	17
	おとなの部	1	1	1	1	1	2	9	16
合　　計		6	6	6	6	6	12	54	96

カ　入賞作品展

○ 名　　称　　第４回てづくりレターコンクール入賞作品展

○ 会　　期　　平成２５年２月１６日（土）～３月３日（日）＜月曜日休館＞

○ 会　　場　　逓信総合博物館２階　企画展示場

○ 入場者数　　３，７６３人

○ 関連イベント

開催日	名　　称	場　所	出　演	参加者
25. 2. 17	チェンミン・レターコンサート	逓信総合博物館地下２階ホール	チェンミンほか	157人

（３）ホームページの見直し

平成１４年度に開設したホームページについては、各種情報の迅速な提供と、各種催事等多目的な活用の場を提供することとし、情報の公開、地方本部も含めた協会主催イベントのタイムリーな掲載、新規会員加入申し込み案内など、会員や逓信事業関係者をはじめ広く通信文化に関心を有する皆さまの情報の拠点としている。

平成２４年度は、郵政資料館の運営が当協会に移管されたことに伴い、逓信総合博物館の展示資料やイベント情報をホームページに取り入れるなど、各コンテンツを全面的に見直した。

○　主なコンテンツ

・「財団の概要」➔公益財団法人としての情報公開

・「事業案内」➔公益財団法人としての事業紹介

・「逓信総合博物館」➔ていぱーくの展示資料やイベント情報等を紹介

・「前島密賞」➔前島密賞の「募集要綱」や「受賞者の功績」を紹介

・「刊行物」➔通信文化協会の会報誌「通信文化」の目次を掲載して掲載事項を紹介

・「お知らせ」➔全国の協会主催イベント及び博物館イベント等をタイムリーにお知らせ

・「協会だより」➔お知らせで案内した各種イベントの開催状況等を案内

（４）社会貢献活動の実施

社会貢献活動の一環として、ポスト清掃等を次のとおり実施した。

地方本部	開 催 日	開 催 地 域	参加者(人)
北海道	24. 7.19	七飯町	12
	24. 8.21	札幌市	8
関　東	24. 4.21	柏市	39
	24.10.25	柏市	40
	24.10.28	東松山市	31
東　京	24. 4.28	渋谷区	80
	24. 6. 3	武蔵野市	77
	24. 6. 9	杉並区（杉並支店）	53
	24. 6.30	文京区	48
	24.10.13	杉並区（荻窪郵便局）	35
	24.10.28	立川市	50
	24.11.17	文京区	36
	25. 2.23	杉並区（杉並南郵便局）	78
九　州	24.10.28	熊本市	100
沖　縄	24.12.14	那覇市	15
	24.12.14	糸満市	10

６　土地・建物賃貸事業

全国５か所に所有している土地は、引続き日本郵便株式会社ほかへ賃貸し、杉並寮跡地は新たに定期借地権付きで賃貸したほか、湯島事務所についても引続き賃貸を含めて活用した。

７　施設管理事業

（１）逓信総合博物館施設関係

逓信総合博物館の施設関係については、東日本電信電話株式会社及び日本放送協会の２機関から、電気・空調等設備維持管理業務を受託した。

（２）日本電信電話株式会社施設関係

逓信総合博物館と同一ビル内にある日本電信電話株式会社の施設関係事務に関しても、電気・空調・衛生・消防設備の保守等の委託を受けた。

８　会員に対する諸施策

会員に対して、次の施策を実施した。

（１）記念品等の贈呈

ア　旧逓信協会会員として、平成２４年３月末までに在会５年以上で郵政グループを退職し退会した個人会員１，３８０人に「長期在会記念品」を贈呈した。

イ　米寿を迎えた個人会員５１３人に「米寿記念品」を贈呈した。

ウ　協会手帳を配付した（希望者のみ）。

（２）インターネットを活用した「つうしんぶんかメンバーズクラブ」の創設

会員サービスの一環として、インターネットを活用した会員専用のポータルサイトを平成２４年８月に立上げ、安価な価格で物品購入等が可能なネットショッピングや各種サービスを紹介・提供している。 各種企画イベントを行うことにより参加者を募り、新規会員加入勧奨のツールとして利用促進を図っている。

（３）叙勲祝賀会（会費制）の開催

叙勲を受章した関東・東京地方本部所属の会員を対象に、本部及び関東・東京地方本部の共催で、春と秋（米寿祝賀会を併合開催）に祝賀会を開催した。 また、北海道、中国及び九州地方本部においても叙勲祝賀会を開催した。

（４）新年賀詞交歓会（会費制）の開催

東京都内と関東在住の会員を対象に、本部及び関東・東京地方本部の共催で１月１１日、逓信総合博物館４階会議室において開催した。また、北海道、東北、東海及び中国地方本部においても新年賀詞交歓会を開催した。

９　中西重思・遺児育英基金の管理・運営

長年、郵政審議会委員などを務め郵政事業に貢献された中西重思氏の遺言により、在職中に死亡した郵政関係社員の遺児（満１８歳未満の子）育英のために、平成１２年１０月に中西育英基金（４億５百万円）が設立された。　当会がその管理、運営を委ねられ、以後、遺児に対して１人４０万円を給付し養育の支えとなっている。

平成２４年度の給付状況は次のとおり。

○ 件数（対象となった遺児数）　２８件　４３名　（前年度　６２件１００名、内１４件２３名は東日本大震災関係）

○ 給付金　１，７２０万円　（前年度４，０００万円、内９２０万円は東日本大震災関係）

平成２４年度末までの給付額の累計は２億９，０４０万円（５５１件・対象遺児９２２人）となった。

１０　団体傷害保険等の取扱

通信文化協会会員及び郵政グループ職員を対象とする福利厚生のための傷害保険等契約状況

は、次のとおりである。

平成２４年度における契約状況

区　　別	口・件 数	保　険　料
団 体 保 険	６５ 千口	５０４ 百万円
団 体 扱 保 険	５ 千件	２９３ 百万円

１１　会員増加対策

平成２４年度の会員増加対策については、公益財団法人への移行に伴い、入会キャンペーンや会員への諸施策の実施による加入獲得に努めることとし、新規加入目標を４，３００人、純増目標を１，７００人に設定して取り組んできた。

その結果、新規加入目標の推進状況は、３，３８４人（対目標７８．７%）となり、対前年度末の個人会員数に対し３０３人の純減となった。

各地方本部別の増強目標に対する推進状況は、東海が新規加入目標及び純増目標ともに達成したほかは、北海道、東北、信越、近畿及び九州の５地方本部が新規目標を達成した。

関東、東京、北陸、中国、四国及び沖縄の６地方本部は両目標ともに未達成であった。

また、新しく公益財団法人として、郵政関係のみならず、通信業界全体に対する法人会員の増加拡充を図るため、本部内目標として新規６０口、純増６０口を計画して取組み、新規７８口を確保した。純増は５２口にとどまった。

会員の現況は次のとおりである。

区　別	平成２４年度末	平成２３年度末	増・減（▲）
個人会員(人)	５７，８７７	５８，１８０	▲　３０３
法人会員(口)	６６７	６１５	５２

（地方本部内訳）

区　別	平成２４年度末	平成２３年度末	増・減（▲）
北 海 道	５，０８２	４，９８８	９４
東　北	６，５６９	６，７８８	▲　２１９
関　東	６，７３５	６，８５７	▲　１２２
東　京	４，８７４	５，００８	▲　１３４
信　越	４，２３０	４，４３４	▲　２０４
北　陸	２，１１５	２，１３７	▲　２２
東　海	６，５１５	６，３６５	１５０
近　畿	７，４８８	７，２４０	２４８
中　国	４，５６１	４，７３８	▲　１７７
四　国	２，９４３	２，９２３	２０
九　州	６，３７４	６，３１２	６２
沖　縄	３９１	３９０	１
合　計	５７，８７７	５８，１８０	▲　３０３

（参考）

「免除会員及び在会１５年以上となる終身会員に対する寄附のお願い」として、平成２２年度から会報の配付を希望する会員には会報郵送料等相当の寄附（支援）をお願いしており、２４年度は２，６１０人の会員から総額３，６６８，５９０円（振替手数料控除後）の寄附収入があった。

１２　役員会議等開催状況

重要案件の審議のために開催した会議は、次のとおりである。

（１）理事会

○ 第１回 理事会（平成２４年５月３１日）

＜議案＞　１　平成２３年度事業報告
　　２　平成２３年度決算報告
　　３　定時評議員会の開催
　　４　内部規程の制定
　　５　顧問の委嘱

○ 第２回 理事会（平成２５年１月３１日）

＜議案＞　１　第５８回前島密賞の授賞者決定
　　２　(財)国際郵便基盤研究開発センター(清算人)からの寄附受

○ 第３回 理事会（平成２５年３月８日）

＜議案＞　１　平成２５年度事業計画
　　２　平成２５年度収支予算
　　３　第２回評議員会の開催

（２）評議員会

○ 第１回 評議員会（平成２４年６月２６日）

＜議案＞　１　議長の選出
　　２　議事録署名人の選出
　　３　平成２３年度決算報告
　　４　評議員会運営規程の制定
　　５　監事の選任等

○ 第２回 評議員会（平成２５年３月１３日）

＜議案＞　１　議長の選出
　　２　議事録署名人の選出
　　３　平成２５年度事業計画
　　４　平成２５年度収支予算

１３　協会本部の組織・業務の見直し

郵政資料館の運営主体が日本郵政㈱から当協会へ移管されたことに伴い、従来の４部体制の業務を見直して部を１増１減し、博物館業務を加えた協会全体の運営を適正かつ効率的に執行することができる体制とした。